

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1077.00	2021/1/18
High	1153.80	2021/1/21
Low	1069.00	2021/1/18
Close	1103.50	2021/1/22

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3606.00	2021/1/18
High	3836.00	2021/1/21
Low	3575.00	2021/1/18
Close	3682.00	2021/1/22

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2391.00	2021/1/18
High	2413.00	2021/1/21
Low	2352.00	2021/1/22
Close	2361.00	2021/1/22

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	7975.00	2021/1/18
High	8012.00	2021/1/18
Low	7834.00	2021/1/22
Close	7852.00	2021/1/22



ニュースエクスプレス

フィンランドと日本、水素燃料電池船舶の開発で協力

フィンランドの電力会社 Flexens Oy は、アランド諸島を行き来するフェリー船の燃料となる船舶用グリーン水素生産の採算性調査に着手している。11月に完了予定のこの調査は、風力基地の水素生産からアランド諸島のフェリー船水素燃料電池を使う流れの技術的、経済的な採算性を初めて調査するもので、現在のところ2024年に初の実用化、そして2025年には日本との技術提携による燃料電池船の運行を計画している。計画に使用するのは全長約100フィート、定員100人、時速12 mph以上の燃料電池フェリー船で、関西電力、岩谷産業、名村造船所、日本政策投資銀行、東京海洋大学が実行可能性調査に協力している。調査では船舶への水素供給のための給油技術開発も行われる。

<https://starconcord.com.sg/finland-and-japan-are-studying-hydrogen-powered-ship-designs/>

ジョンソン・マッセイ、グリーン水素生産に不可欠な部品の生産能力を拡大へ

持続可能な技術の先端を行く世界大手のジョンソン・マッセイ (JM) は、炭素を全く発生させない「グリーン水素」生産技術の商業化計画にむけて大きな一歩を踏み出した。同社が最先端技術を集めて高性能膜電極接合体、触媒コーティング膜、燃料処理触媒を大規模に生産している英スウィンドン工場に、触媒コーティング膜の新たな生産能力を加える。この新たな生産能力により、同社は数千戸に電力供給できる数十万メガワットの水素生産が可能になる。現在稼働中の電解装置は最大でも10メガワットから20メガワットであることから、この計画によって同社は世界規模のプロジェクトを手がけるだけでなく、水素市場が予測通りに成長して需要が増えれば、数ギガワット規模の生産にまで能力を拡大する道筋をつけることになる。

<https://www.nasdaq.com/press-release/johnson-matthey-announces-manufacturing-capacity-for-key-components-in-green-hydrogen>

Gold Fields 社、Nick Hollandの後任にChris Griffithを新CEOに任命

南アフリカのGold Fields Ltd. は3月31日に引退するNick Holland の後任としてChris Griffith を新たに取締役としてと選出したと1月21日に発表した。

Griffith氏はアングロ・アメリカン・プラチナム社の取締役を2012年から2020年まで務めた。同社によると13年間取締役であったHolland氏は移行をスムーズにするために当初の予定を6ヶ月早めて引退することに同意した。

<https://www.morningstar.com/news/dow-jones/202101215271/gold-fields-appoints-chris-griffith-to-replace-departing-ceo-nick-holland>

韓ヒュンダイ、水素自動車市場の先取り狙う 広州に水素燃料電池の工場を建設

韓国聯合ニュースの1月5日付けの報道によると、韓国のヒュンダイ（現代）自動車が中国広州市に国外初の水素燃料電池生産工場を建設するという。

水素燃料電池システムは政府の支援を受けて開発された国家コア技術であり、技術を輸出するためには関連法令に基づいて産業技術保護委員会の承認を受けなければならない。韓国の政府関係者によると、ヒュンダイ自動車の広州工場は水素燃料電池の最終工程を担い、コア技術が漏洩する可能性は低く、また中国での工場建設は中国の水素自動車市場を先取するのに有利となるので承認したとのこと。

聯合ニュースは「ヒュンダイ自動車は、同工場の合併会社設立のために現在ある中国企業と交渉を進めており、早ければ1月中に同工場に関する情報を発表するだろう」という消息筋の話を引用している。

またヒュンダイ自動車は2020年12月31日、水素燃料電池の新しいブランドを披露した。「HTWO（エイチツー）」という名称で、2030年までに世界で70万個の水素燃料電池を販売することを目指す。同社は、将来的に米国や中国など海外へも水素燃料電池システムの販売を拡大する計画だとしている。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/174bbc4b1aa9fd01aa0af8e9b24f91c69e65601f>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA

WPIC直近の活動

- 宇宙探索にとってプラチナは不可欠な材料だ。プラチナを触媒とする水素燃料電池は1969年の人類初の月面着陸に使われた画期的な技術の一部であったし、スペースシャトルミッションにも使われていた。詳しくはWPICのプラチナ豆知識「月面への一歩」（2021年1月21日）をご覧ください。
- アジアヘッド鄧偉斌氏はSingapore Bullion Market Association (SBMA) の季刊である「Crucible」 Issue 16 December 2020へ寄稿。WPIC中国と日本の歩みを紹介しました。詳しくは<https://www.sbma.org.sg/media-centre/publication/crucible-issue-16/platinum-set-to-soar/>



(@wpicjapan)